

地域体験活動②
しがモックとキラリエ草津訪問
～木のぬくもりと地域の熱さを感じる～
2025年9月23日（火・祝）

滋賀県
子ども県議会
事務局発行/No.4



地域体験活動では、子どもたちが県庁を飛び出し、地域に根付いた施設や団体を訪問し、直接お話を伺うことで、滋賀県の魅力や課題について学びます。今年は4か所の協力をいただき、子ども議員たちは各地で貴重な体験をさせていただきました。2回目の地域体験活動では、野洲市にある「しがモック」と草津市にある「キラリエ草津」を訪れました。

びわ湖材ってなんだろう？

県のびわ湖材流通推進課の西井さんから「滋賀県の約2分の1が森林で占められている」というお話をありました。その豊かな森林資源をどのように活かし、次の世代へつないでいくかが滋賀県の大きな課題であると教えていただきました。また、県のシンボルツリーであるモミジは、四季の変化とともに美しく色づき、木の生命力と滋賀の自然の豊かさを象徴していることも紹介されました。

子どもたちは、木が単なる「素材」ではなく、人々の暮らしと文化を支える存在であることを実感しました。



びわ湖材とは、滋賀県内の森林から伐採された木材で、認定された事業者を流通して供給される、合法性が確認できる木材のこと。産地が証明された身近な木材といえます。



オープンしたての「しがモック」に特別入場！

その後、子どもたちは8月にオープンしたばかりの、野洲市の近江富士花緑公園内にある「しがモック」へ。「しがモック」は滋賀県産の木材「びわ湖材」を活用し、“暮らし・森・琵琶湖・人・世代をつなぐ”という理念のもとに誕生した木育（もくいく）拠点です。施設内では木育の理念が随所に感じられます。裸足で歩ける木の床、地形をモチーフにした遊具、県内産の木で作られた温かみのあるおもちゃなど、木のぬくもりに包まれながら学べる環境が整備されています。職員の方々は、「木に触れることで、子どもたちが自然を身近に感じてほしい」と語っておられました。実際に木に触れ、香りや感触を確かめながらさまざまな遊びを楽しみました。館内には、木で作られたおままごとのような遊び道具や、秘密基地のように隠れられる空間、木の滑り台、積み木コーナーなどがあり、子どもたちは自由に手を動かしながら、木のぬくもりを全身で感じ取っていました。



温泉はないけど、熱い人たちで沸いている草津市さんへ



草津市役所の織田さんからは、子ども・若者の意見をまちづくりに生かすための草津市の取り組みについて紹介がありました。子どもたちは「まちの中には子どもや若者の声を聞いてくれる人がいる」ということを知り、教えていただきました。具体的な取り組みについては、NPO法人くさつ未来プロジェクトの野口さんよりご紹介していただき、続いて、草津市コミュニティ事業団の中村さんからは、地域の人・お店・行政をつなぎながら活動を支える“中間支援”という仕組みについて教えていただきました。



草津市では、防災やイベント、若者の挑戦など、「地域の人がやりたいこと」を応援する活動が広がっています。地域での活動や子どもたちとの関わりを通して、「人と人とのつながりがまちを元気にする」「小さな行動でも地域を変えるきっかけになる」というお話を聞き、「私たちに何が出来るのか」考えながら聞いている様子もありました。

みんなで“まちづくり”について考える！

お話を聞いたのち、子どもたちからは「すごく大会を開いて、地域の人と交流したい！」「スイッチ大会をして、全く知らない人とも楽しくつながりたい！」など、遊びを通して人とつながりたいという思いのこもったアイデアが出ていました。

また、「SNSで活動を広めたい」「年齢に関係なく参加できる居場所をつくりたい」など、地域の中で世代を超えて関わられる仕組みについての意見も見られました。子どもたちは、「どうしたら関わりが生まれるか」「みんなが楽しめる場にするにはどうしたらよいか」といった視点を大切にしながら、目的をもって考えていました。まさしく、今回のお話のテーマである「まちづくりと市民協働」へとつながる入り口を体験できた時間となりました。



地域体験活動にご協力いただきました皆さまへ

今回の地域体験活動を通して「木を使うことが森を育てるにつながる」という森林の循環の大切さを学びました。滋賀県の約半分を占める森林の恵みを守り活かしていく人々の努力を知ったことは、子どもたちにとって大きな発見となりました。また、まちづくりや地域社会に目を向けるきっかけにもなりました。これまで“遊び”や“イベント”として考えていたことが、「地域の人とつながる」「誰かの役に立つ」「まちをよりよくする」という視点から捉えられるようになり、「自分たちにもできることがある」「地域の人と一緒に行動してみたい」という気持ちが育っています。ご協力いただいた西井さん、織田さん、野口さん、中村さんに心より感謝申し上げます。